

平成27年1月5日

釜石市議会議長 海老原 正人 様

会派名 21世紀の会

代表者 木村 琳藏



### 会派視察調査報告書

21世紀の会派所属議員による視察調査を下記のとおり実施しましたので報告いたします。

#### 記

##### 1. 視察項目

「離島発 地域再生への挑戦

町政の経営指針「自立・挑戦・交流」による人口増と地域の再生について」

日 時 平成26年11月19日（水）13:30～17:30

参加者 木村 琳藏 佐々木 義昭 古川 愛明

##### 研修内容

・13:30～14:30

承久海道キンニャモニャセンター近くの体験交流施設において、町の施設（有）隠岐潮風ファーム、（株）ふるさと海士CAS凍結センター、（株）ふるさと海士承久海道キンニャモニャセンター（事務所、産直売所、レストラン）他、海士町漁業研修施設（海藻センター）、農林水産物処理加工施設（なまこセンター）、地域情報基盤施設（あま光ネット）等の説明をいただきました。

⇒ 説明者 サミーラ・グナワラデナ（スリランカ出身）



・ 14 : 30 ~ 16 : 30

説明のされた施設を順次サミーラさんの運転のもと案内いただきました。

※資料 ⇒ 施設の概要で施設の内容等は詳しく述べられています。

施設のほとんどが民間の施設なわけですが、初期投資が多大にかかる為に町が協力して（建設する等）一つの事業を立ち上げている。

例えばなまこセンターは初期で 7,000 万円かけて事業開始していますが、年間売上が 2,000 万円以上、雇員が 5 人程度となっている。

運営団体は（株）たじまや、社長は一橋大学を卒業された移住者です。

一人ひとり、一件一件の案件に町は真剣に取り組んでいる。熱意に誠意で応える事による人口増と活性化。

・ 16 : 30 ~ 17 : 30

海士町役場 産業創出課長 大江 和彦 氏 ヒアリング

質 問

(1) 現在の活発な町おこしのきっかけは何か。

⇒ 平成 14 年に今の山口道雄町長になってから。

質 問

(2) 島の人々が今の様な意識になったキーワードは何か。

キーマンは誰なのか。又 NPO 団体のようなのか伺う。

⇒ 小泉風が吹く

①平成の大合併 → 合併の効果がない。

→ 合併の話し合いを住民同士でやる。

→ 合併はしない。

②このままでは財政破綻をする。

③自立の道の選択 → 守りと攻めの。

④行政改革については全国規模で知られる。

■町長のリーダーのもと住民が協力した

■キーマンは町長。その後に職員、住民

■ 2 億円を浮かせる改革 → 町長報酬 50% カット等

■構造改革特区 → 株式会社で農業

■地域再生計画 → 財政開拓 → 営業に国の予算を使う

→ 一般財源はなしで

■平成 27 年度からモデル自治体となる

## 質 問

(3) 町役場を民間の株式会社と考えるのに何の抵抗もなかったのか。

- ⇒ ■町長は社長  
■副町長は専務  
■課長は役員  
■職員は社員  
■住民は株主  
■町長は自ら報酬カット  
■職員の提案した → 管理職の方から給与カット申し出  
■係長、職員の方が課長より給与が高い  
→ 職員も給与カットを申し出る  
■職員は自治労からの脱退を覚悟する → 脱退しなくて済む！！  
■山口町長は議会からは押されていなかった → 議員報酬もカット  
■産業創出課 → 40人の職員 → 現場へ12人出る  
→ 土曜、日曜は交替で → 農業生産者周り  
→ 野菜の集荷（朝6：00）  
→ 高齢者の見回りを兼ねる  
■住民に対する報酬（管理手当等）（区長手当）も  
カットの申し出になる

## （ 感 想 ）

東日本大震災により大変な時期、復興もままならない状況の中で、海士町の様々の施策を取り入れる。それは大変難しい事に思いました。が、逆転の発想で町から何にもなくなった被災地のまちづくりには、この海士町の考え方も良いのではないかと考えます。

島全体をブランド化を目指す。単品ブランド、サザエカレー、海士白いか、隠岐牛等々。

サザエカレーは島では常識で日常的に食されていた。それが少しの工夫で全国版で売れる様になる。

白いかはCAS（キャス）と言う冷凍保存の技術により世界へ発信している。

隠岐牛はもともと神戸牛、松坂牛のもとなっている牛との事。海士で建設業者が子牛から育てて、ブランド牛として確立して行く。

全て民と官の連携のもとで、この島を、海士町を消滅させたくないと言う考えのもとでの事であります。

全町民の意識が変わり、平成16年から24年で移住者361名264世帯で定住率が6割との事でした。

ほとんどが企業への就職ではなく起業により夫婦でのIターンであります。

大震災により、人口が減り続けている当市においても参考になる事が大いにある様に思います。

地域会議事のブロック、あるいはもっと小さく自治会事のブロック等と行政のリーダーのもとで、我町の活性化、人口増へ立ち向かう創意工夫すべきと思いました。